

現代經濟事情Ⅲ 世界經濟と中小企業

第3回

2008年4月25日

高田好章





今日の富士山



今週の田畑の育ち



車窓：大井川



グリーン車にて



京都・日野 平重衡の墓



平重衡の墓は団地の中の公園に

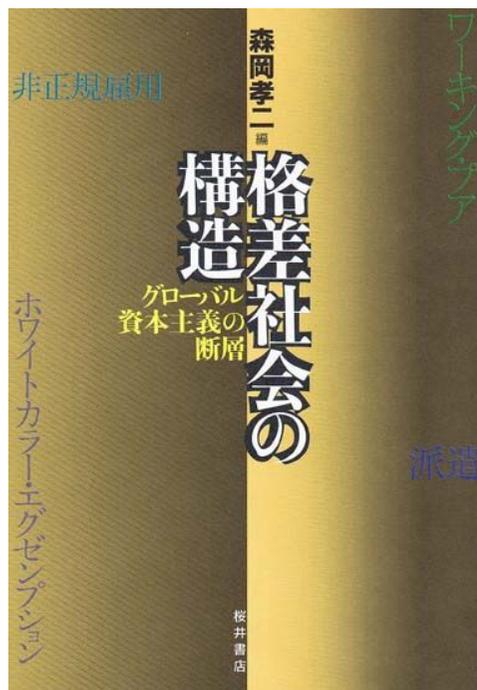


今週のテーマ

働きすぎを考える

テキスト

第1章 新しい働きすぎと ホワイトカラー・エグゼンプション



森岡孝二編著
『格差社会の構造
ーグローバル資本主義の断層』
桜井書店、2007年9月刊



労働ビックバン

ホワイトカラー・エグゼンプション :
残業ただ働き制度

労働時間規制の適用除外:
2007年導入を断念



グローバルゼーション
情報通信技術の変化
消費社会化の進展

アメリカ発の新しい働きすぎへ
市場個人主義に立脚



見せかけの時短のもとで
猛烈に長時間働く

過労死110番

過労死の社会問題化

働きすぎ = 働かされすぎ



政府の「年間1800労働時間計画」

= 2005年に達成

- ・毎月勤労調査と労働力調査の違い

労働力調査：実際に就業した時間：

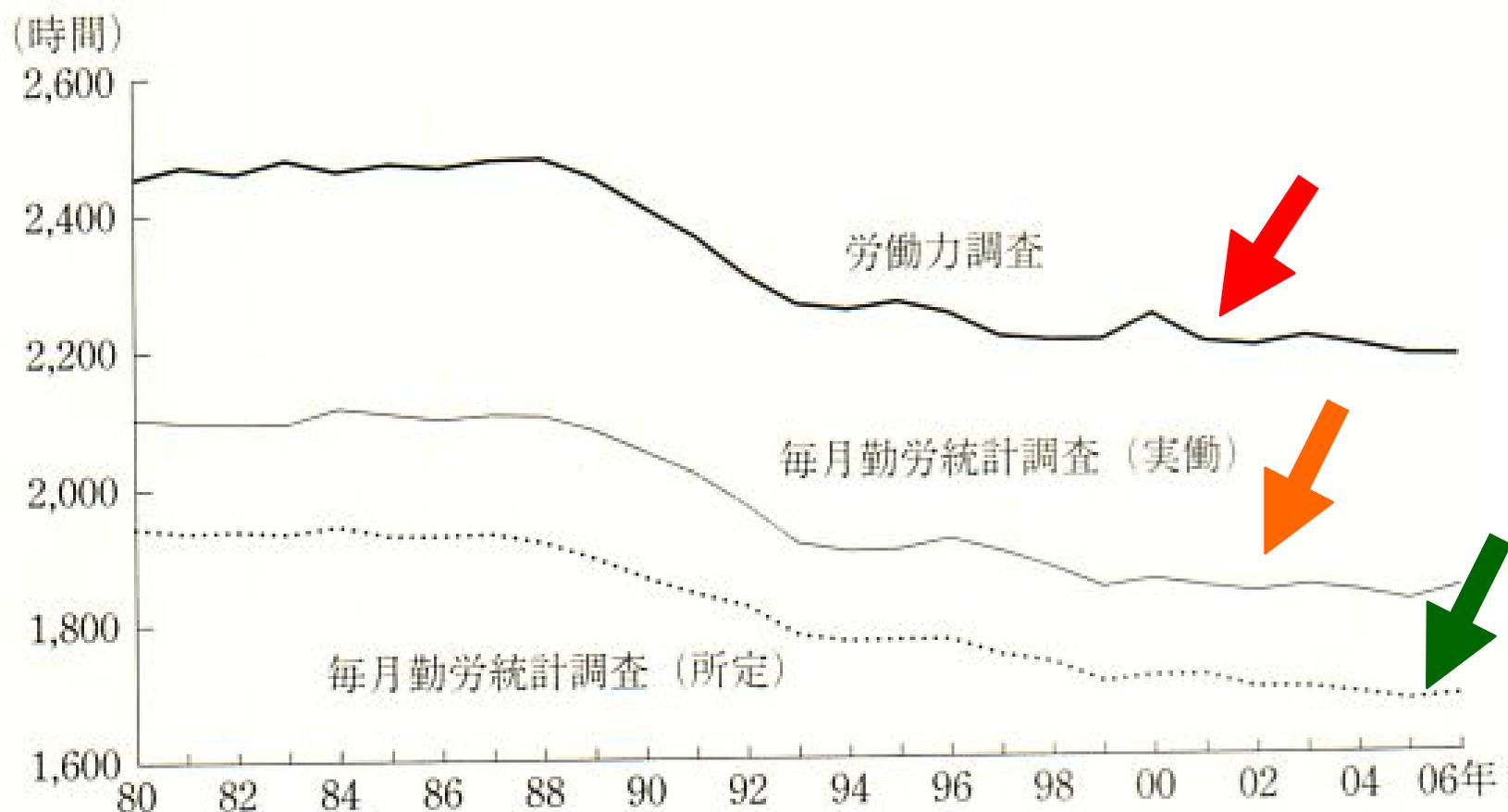
世帯調査（総務省）

毎月勤労調査：事業者の賃金台帳の時間
サービス残業を含まず

事業所調査（厚生労働省）

- ・短時間労働者の増大

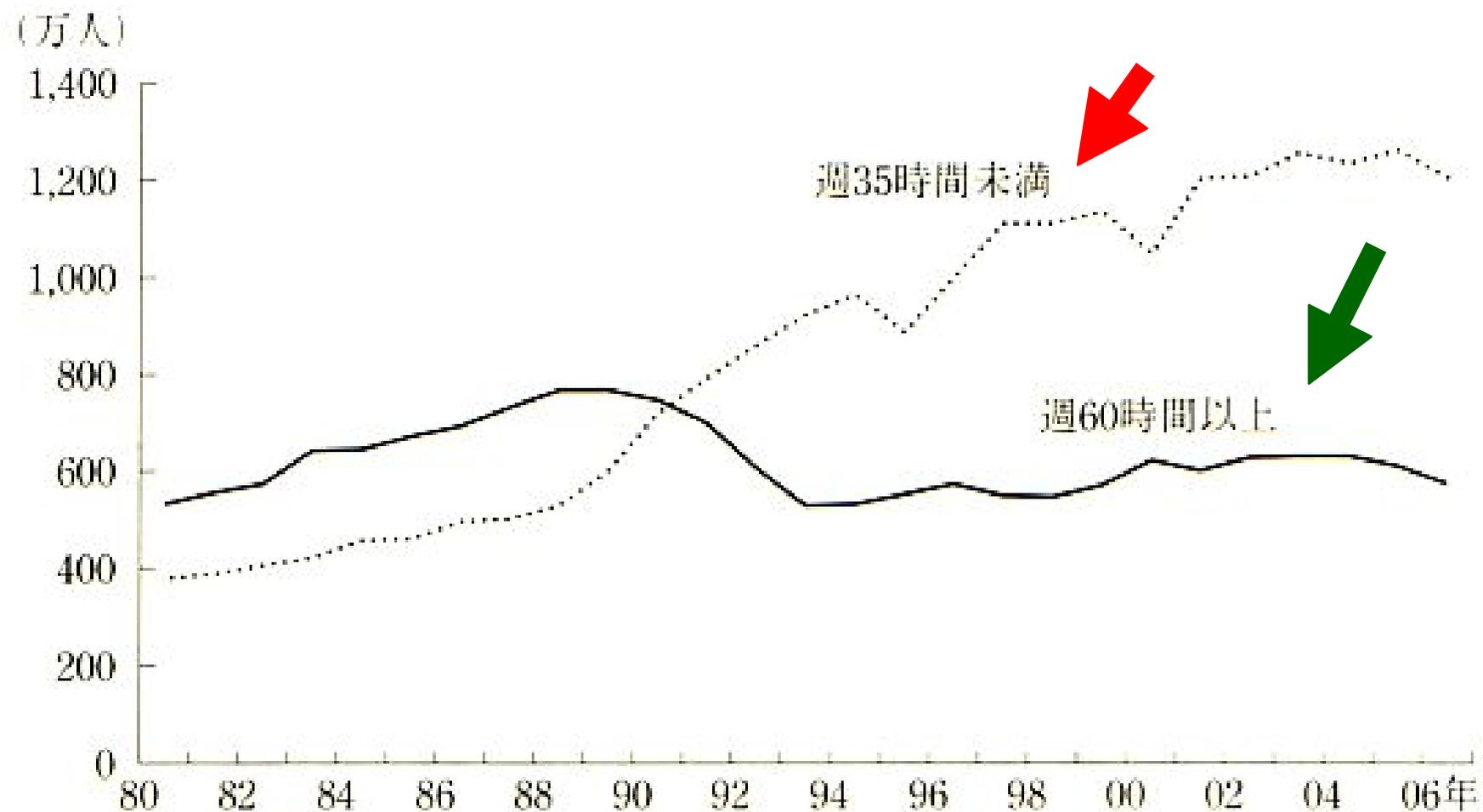
図 1-1 労働時間の推移（1980～2006年）



(出所) 「労働力調査」「毎月勤労統計調査」。

(注) 「労働力調査」の労働時間は非農林業雇用者のもの。「毎月勤労統計調査」の労働時間は実働，所定とも規模30人以上。

図 1-2 週35時間の労働者と週60時間以上の労働者の推移(1980~2006年)



(出所) 「労働力調査」。

(注) パートタイム労働者は週労働時間が35時間未満の労働者を指す。



「労働力調査」

30代後半 週50時間以上

表 1-1 年齢階級別週労働時間の分布（男性）

年齢階級	従業者 総数	35時間 未満	35時間 以上(a)	35～43 時間	43～48 時間	49～59 時間	60時間 以上(b)	b/a	週平均
	万人	万人	万人	万人	万人	万人	万人	%	時間
全体	3,665	519	3,123	992	711	763	657	21.0	46.5
15～19	49	25	24	10	6	5	3	12.5	31.5
20～24	239	59	178	64	45	40	29	16.3	41.7
25～29	379	35	341	105	80	85	71	20.8	48.0
30～34	454	32	419	114	92	109	104	24.8	49.9
35～39	407	27	376	96	81	102	97	25.8	50.3
40～44	375	26	347	93	75	92	87	25.1	49.8
45～49	361	26	333	100	76	86	71	21.3	48.9
50～54	403	37	363	120	86	88	69	19.0	47.7
55～59	441	51	387	142	93	86	66	17.1	46.3
60～64	264	73	191	77	44	37	33	17.3	41.7
65～	294	128	164	71	33	33	27	16.5	36.1



（出所）「労働力調査」2005年平均。

（注）従業者数は就業者数から休業者数を差し引いた人数。



「日経ビジネス・アソシエ」

30代前半 週60時間以上4割

30代後半 週70時間以上17%

表 1-2 年齢階級別・労働時間別労働者数の割合（男性）

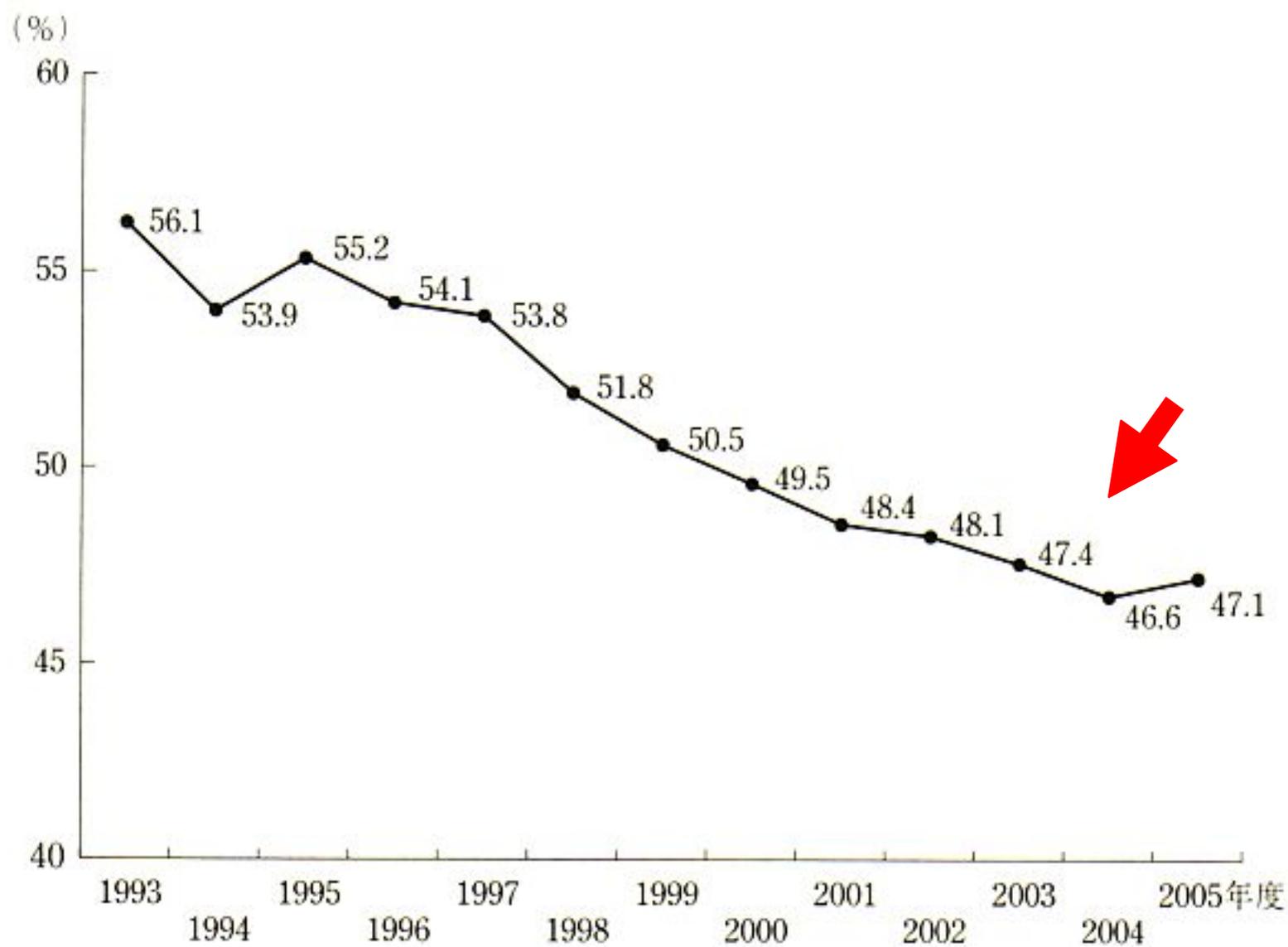
年齢階級	40時間 未満	40～49 時間	50～59 時間	60～69 時間	70時間 以上	週平均
	%	%	%	%	%	時間
24未満	13.2	33.3	23.3	16.7	13.3	53.33
25～29	9.6	20.8	31.3	27.5	10.8	55.92
30～34	6.7	17.7	36.8	24.1	13.9	57.11
35～39	10.1	21.4	33.5	17.9	17.1	56.05
40～44	7.0	24.4	31.4	20.3	16.3	56.46
45～49	8.3	25.0	36.9	17.9	10.7	54.76
50以上	17.5	27.5	30.0	7.5	17.5	53.00

（出所）「日経ビジネス アソシエ」2006年5月16日号。



有給休暇の取得率の低さ

図 1-3 年次有給休暇取得率の推移



(出所) 厚生労働省「就労条件総合調査」(旧「賃金労働時間制度等総合調査」)。



日本的働きすぎの特徴

- 1) 「男は仕事、女は家庭」+
「男は残業、女はパート」の性別分業
- 2) 長時間残業とサービス残業
- 3) 残業に対する労働組合の規制力の弱さ
三六協定、違法残業
- 4) 過労死・過労自殺の存在
労災認定
月100時間、あるいは月80時間を
越えると過労死・過労自殺へ

表 1-4 過労死・過労自殺などの労災認定状況

年度		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
脳・心臓疾患	請求件数	493	617	690	819	705	816	869	938
	認定件数	81	85	143	317	312	294	330	355
	うち死亡	48	45	58	160	157	150	157	147
精神障害等	請求件数	155	212	265	341	438	524	656	819
	認定件数	14	36	70	100	108	130	127	205
	うち自殺	11	19	31	43	40	45	42	66



(出所) 厚生労働省「脳・心臓疾患及び精神障害等に係る労災補償状況」2004年～2006年。

(注) 脳・心臓疾患、精神障害等とも業務により発症した事案。自殺は未遂を含む。

電通の「鬼十訓」の5番目

「取り組んだら放すな、殺されても放すな、
目的完遂までは」

死ぬまで働く、死ぬほど働く →
日本の正社員の働き方の基準



2008-4-24
期
「休みたいなら
やめればいい」

日本電産社長が持論

「休みたいならやめればいい」――。日本電産の永守重信社長は23日、記者会見で「社員全員が休日返上で働く企業だから成長できるし給料も上がる。たっぷり休んで、結果的に会社が傾いて人員整理するのでは意味がない」と

持論を展開。10年間で売上高が6倍超という成長の原動力が社員の「ハードワーク」にあることを強調した。

同日発表した08年3月期連結決算は、売上高が前年同期比17・9%増の7421億円で、5期連続の2けた成長。営業利益も768億円で過去最高だった。07年に日立製作所から買収した日本サーボが買収初年度で黒字転換し業績に貢献した。





アメリカ発の新しい働きすぎ 5つの「資本主義」

1) グローバル資本主義

多国籍企業 国内雇用不安定
賃金の引き下げと労働時間延長

2) 情報資本主義

仕事の時間と個人の時間の境界を
あいまいに(ケータイ)
仕事はどこまでも追いかける
熟練を不要にし、非正規雇用に置き換え

アメリカ発の新しい働きすぎ 5つの「資本主義」



3) 消費資本主義

消費を追い求める

スピードとコンビニ化

長時間深夜走るトラックと

パート・アルバイトの細切れ労働者

4) フリーター資本主義

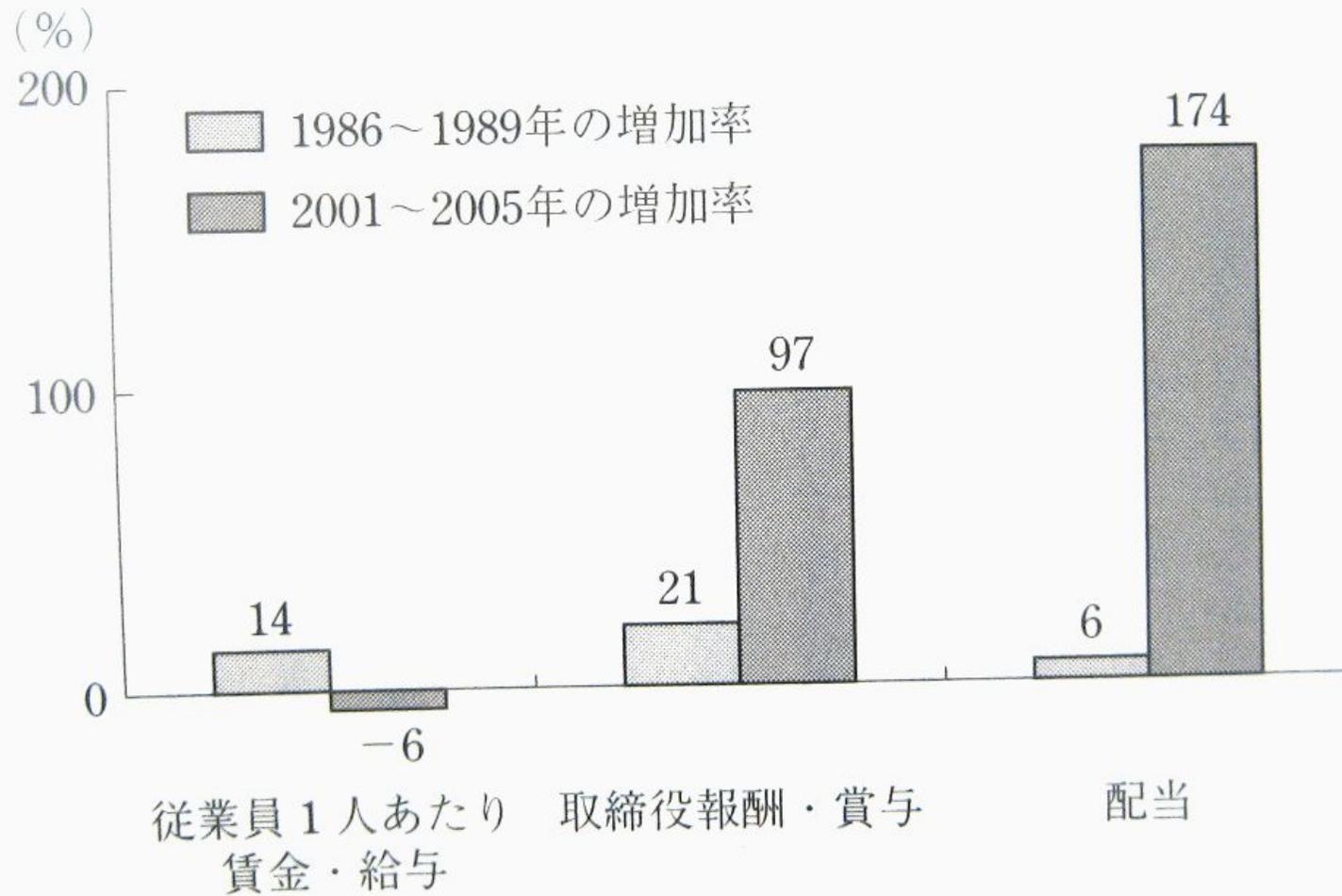
労働市場の流動性

5) 株主資本主義

株価至上主義

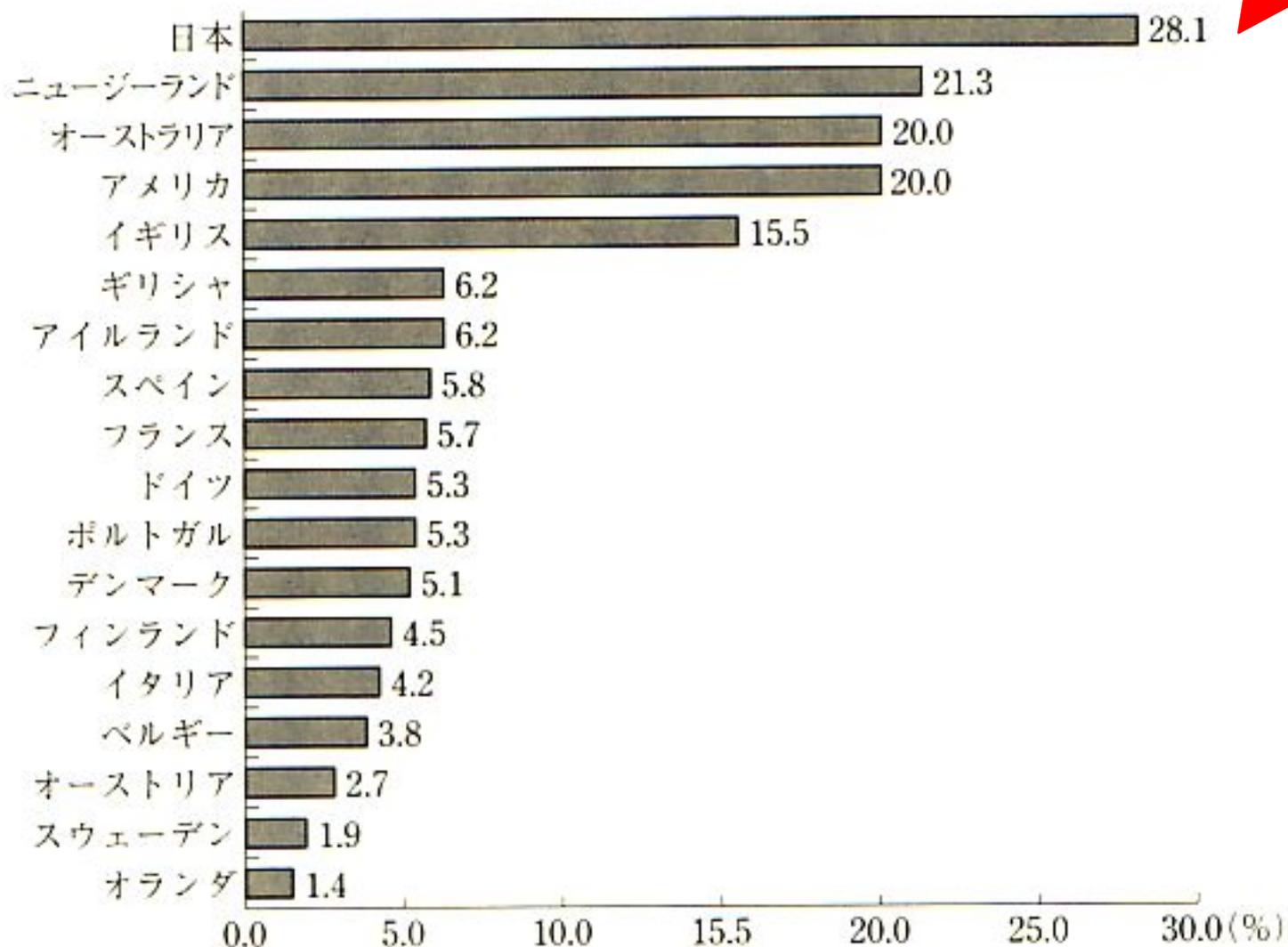
M&A(企業合併・吸収)・リストラ

図 0-7 従業員給与，取締役報酬および配当の増減比較



(出所) ロナルド・ドーア「株主オンブズマン創立10周年記念講演」
資料 (2006年10月11日)。

図 1-4 週労働時間が50時間以上の労働者の割合



(出所) 2006年版「国民生活白書」、原資料はILO、2004年。

(注) 各国のデータは2000年、アメリカは1998年。アメリカと日本は49時間以上働いた割合。



新自由主義的市場個人主義:

国家による労働時間の規制は好ましくなく、
働き方は労働市場における個人の自由な
選択にゆだねるべき

ホワイトカラー・エグゼンプションの導入論

ホワイトカラー:労働時間規制に適用除外

成果主義賃金 時間で算定が困難

管理監督者:残業手当の支払義務除外

過労死は自己管理の問題：人材派遣会社社長

自分の裁量で働く → 労働基準監督署も不要

ホワイトカラー・エグゼンプションを

導入したアメリカの結果

残業代は支払われない

働かされすぎの果てに、使い捨てられる

ホワイトカラー労働者を大量に作り出した



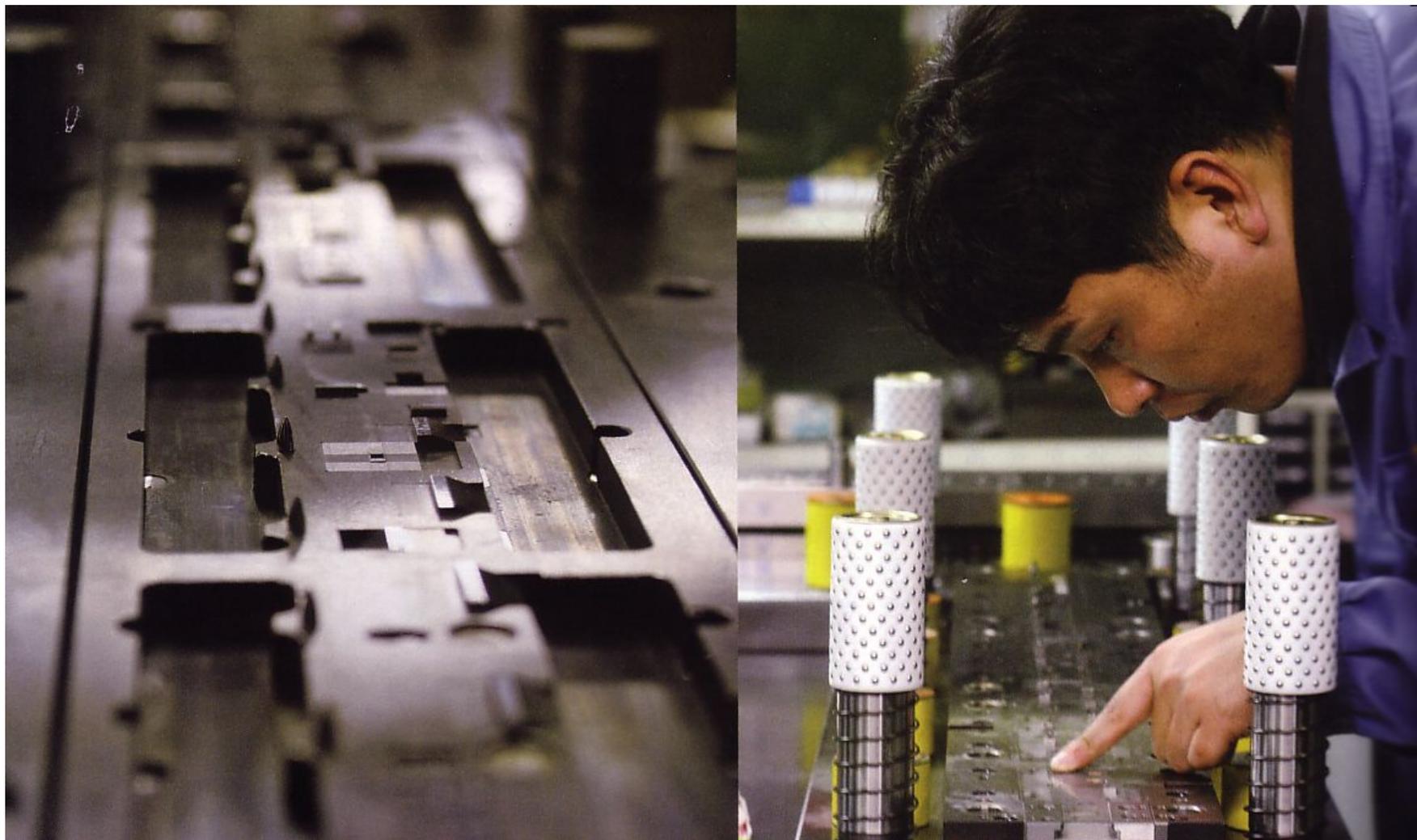


今週のテーマ

働きすぎを考える

終わり

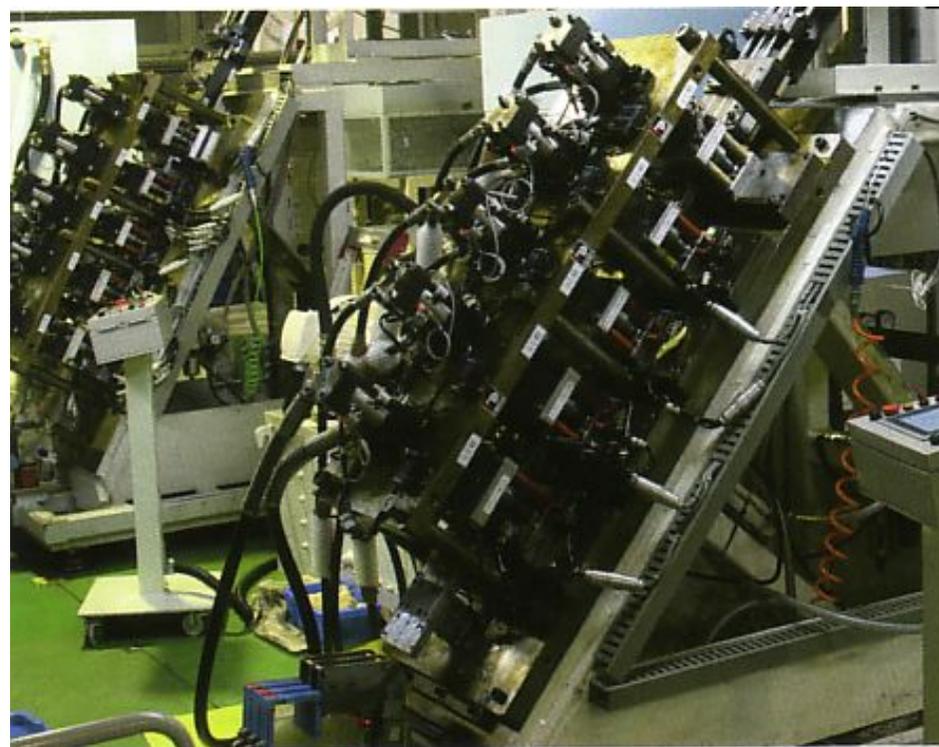
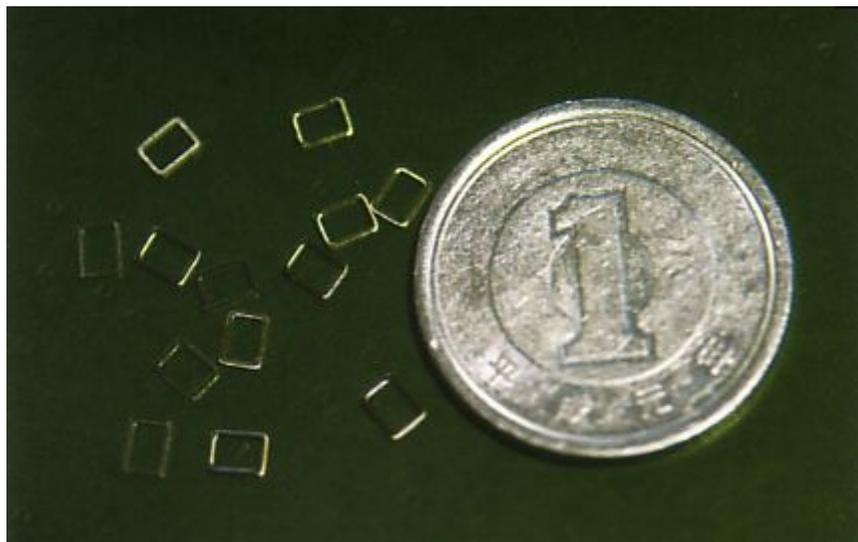
今週の元気な企業と人



寿精密（和歌山県かつらぎ町）

Fole 2006-01

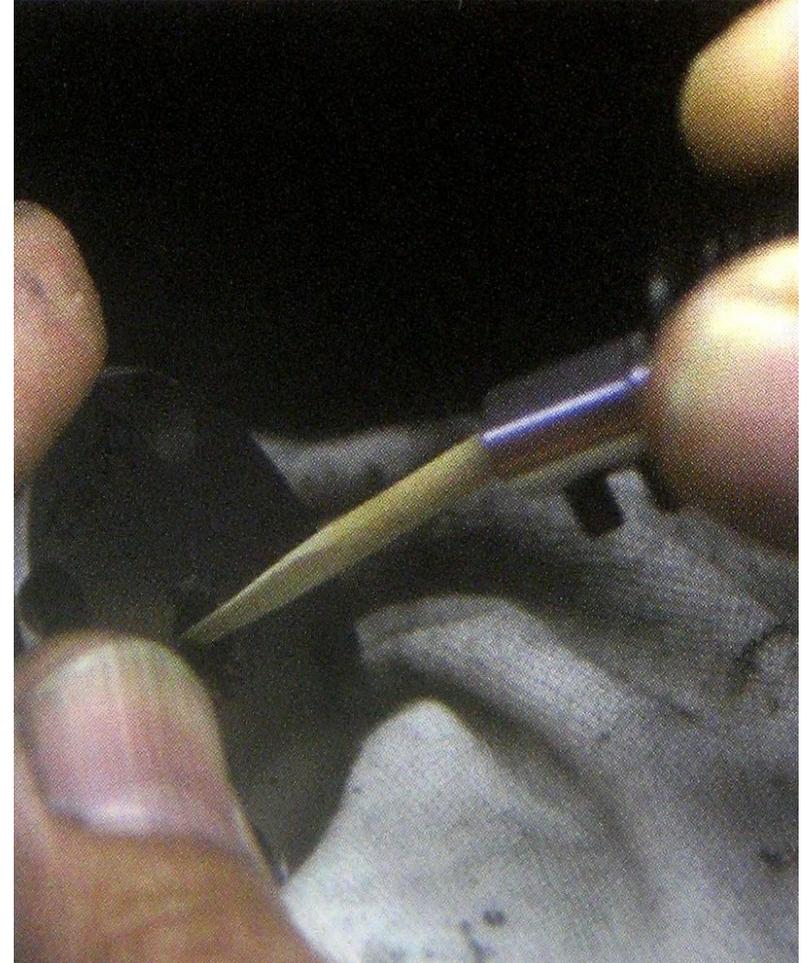
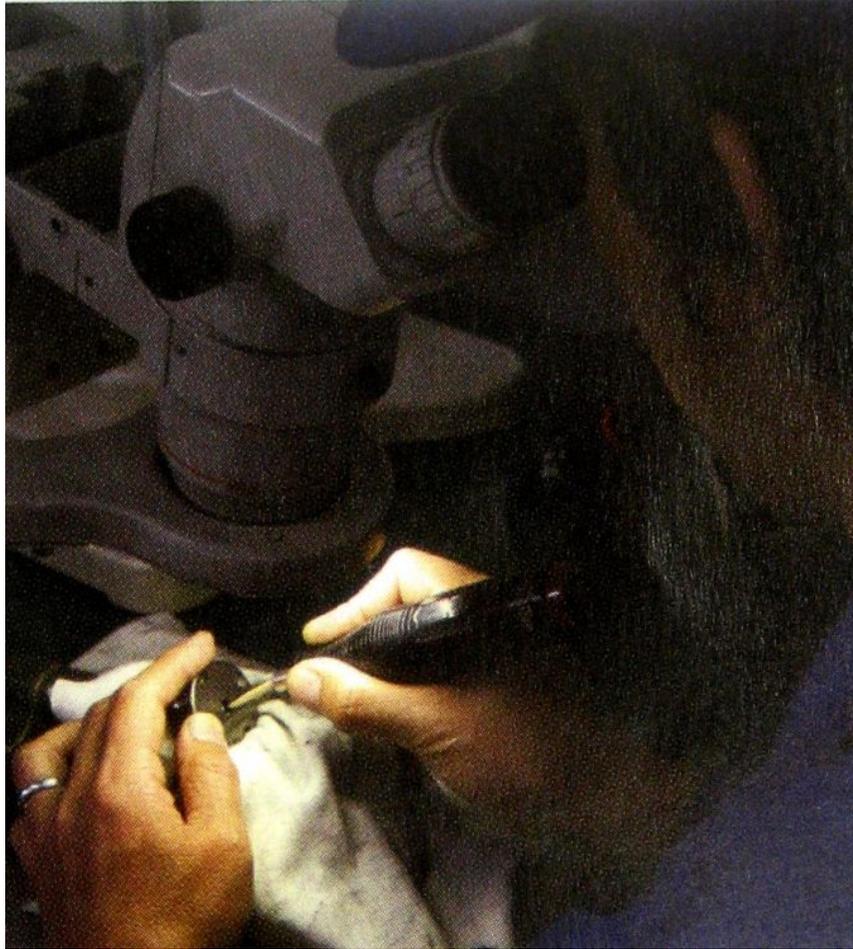
今週の元気な企業と人



寿精密（和歌山県かつらぎ町）

Fole 2006-01

今週の元気な企業と人



寿精密(和歌山県かつらぎ町)

Fole 2006-01

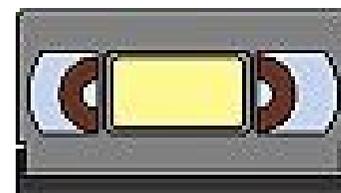
ビデオ鑑賞

悲鳴をあげる “名ばかり管理職”

クローズアップ現代

NHK:2007年11月19日放送

26分



現代経済事情Ⅲ 世界経済と中小企業

第3回 終わり

2008年4月25日

高田好章

